

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公告

## ⑫ 特 許 公 報 (B 2) 平 1-19689

⑬ Int. Cl. <sup>4</sup>	識別記号	庁内整理番号	⑭ 公告 平成 1 年 (1989) 4 月 12 日
C 08 L 23/06	LCD	7224-4J	
A 47 G 27/02		7909-3B	
C 08 K 3/00	CAM		
/(C 08 L 23/06 23:08)			発明の数 1 (全 3 頁)

⑮ 発明の名称 車両用カーベットパツキング樹脂組成物

⑯ 特 願 昭 57-133643

⑰ 公 開 昭 59-24735

⑱ 出 願 昭 57 (1982) 8 月 2 日

⑲ 昭 59 (1984) 2 月 8 日

⑳ 発 明 者 林 勇 夫 愛知県名古屋市昭和区折戸町 6 丁目 56 番地

㉑ 出 願 人 林テレンプ株式会社 愛知県名古屋市中区上前津一丁目 4 番 5 号

㉒ 代 理 人 弁理士 若 林 忠

㉓ 審 査 官 中 島 庸 子

㉔ 参 考 文 献 特開 昭 53-110644 (JP, A)

1

2

## ㉕ 特許請求の範囲

1 (イ)メイルトインデックス (M.I.) が 10~50 である低密度ポリエチレン 100 重量部、(ロ) M.I. が 10~75 であるエチレン酢酸ビニル共重合体 15~80 重量部および(ハ)無機充填剤 30~200 重量部よりなり、該(イ)および(ロ)の M.I. の比率が 1:1.5~1.5:1 であるカーベットパツキング樹脂組成物。

## 発明の詳細な説明

本発明は自動車のフロアー等に敷設されるカーベットのパツキング用樹脂組成物に関する。

従来、自動車用カーベットのパツキング方法は、その一つとして低密度ポリエチレン (以下 LDPE と云う) を T ダイにより押出してカーベット裏面に貼合わせロールにより圧着する方法があった。この場合 LDPE の目付量は普通 200~650 g/㎡ の範囲である。

この方法によりパツキングされたカーベットには次のような問題点があった。すなわち、パツキング層の剛性が高いためフロアーに敷いた時のクッション性が劣り、またこれと関連して遮音性を改良する目的からパツキング層の目付量を増すと、剛性が高くなり過ぎ、事実上使用不可能となる。さらに、LDPE は充填剤を混入することが困難なためコストが高くなる。すなわち LDPE 内への充填剤の分散が不均一となり、そのためアバタが発生したりその他の欠陥が生じたりした。実際上

30% 以上の充填剤の混入は強度的にも不可能である。

上記以外の方法として、上記欠点を改良し、従来の LDPE の代りに下記配合の材料を用いる方法がある。

その材料は、エチレン酢酸ビニル共重合体等のエチレン共重合体に充填剤として炭酸カルシウム等、および粘結剤としてアタクチックポリプロピレンあるいはパラフィンワックス等の低分子量樹脂を混合したものである。

この材料は特に遮音性を向上させるためにパツキング層の目付を 1 kg/㎡ 以上とした場合には有効で良好な剛性とバイルの拔糸強度を保持することができる。しかし、1 kg/㎡ 未満のパツキング目付の場合には、耐熱性が不足し、また柔軟性があり過ぎて床への置敷性が良くないという欠点がある。

本発明の目的は、上記従来の欠点を克服し、低密度ポリエチレン、エチレン酢酸ビニル共重合体あるいはグラフト共重合体および無機充填剤を所定の割合において配合して、樹脂中への充填剤の分散を改良し、そのことによりパツキング剤のコストを低減し、またパツキング目付が 200~1000 g/㎡ の場合に最適な剛性をカーベットに与えるためにパツキング材の硬さを調節した車両用カーベットパツキング樹脂組成物を提供することにある。